

令和6年度病害虫防除技術情報(第5号)

和歌山県農作物病害虫防除所

## カンキツそうか病の防除を徹底しましょう

カンキツそうか病(写真1および2)の発生が令和5年以降多くなっています。薬剤散布や伝染源の除去など適切な防除対策を実施しましょう。

1. 対象作物：カンキツ
2. 対象病害虫名：カンキツそうか病
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：やや多
5. 発生状況：

県内のウンシュウミカンほ場における令和6年8月の発生ほ場率は17.6%(平成6.2%)であった(図1)。また、令和5年以降は発生が増加している。

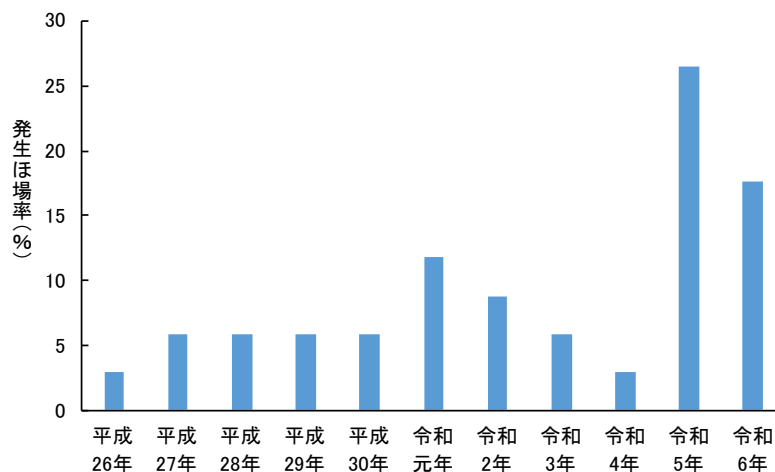


図1 ウンシュウミカンにおけるカンキツそうか病の発生ほ場率の推移

調査ほ場数:34、調査対象:果実、調査時期:8月中旬

6. 防除上の注意事項
  - 1) 防除適期は発芽直後、落弁期、幼果期である。特に発病した新葉が果実の伝染源となるため、発生ほ場では発芽直後の薬剤散布を徹底する。
  - 2) 病原菌は枝葉の病斑中で越冬して一次伝染源となるため、病斑が形成された枝葉をできるだけ除去し、伝染源を減らす。
  - 3) 多雨や多湿は発生を助長するため、混み入った枝葉を整理し通風をよくする。
  - 4) ウンシュウミカン発病しやすいため特に注意する。レモン、三宝柑などはこれに次ぎ、夏橙、ネーブルなどでは発病しない。
  - 5) 主な防除薬剤を表1に示す。薬剤は最新の登録情報(農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)を参照し、適正に使用する。



写真1 カンキツそうか病の被害葉



写真2 カンキツそうか病の被害果

表1 カンキツそうか病に対する主な防除薬剤<sup>1)</sup>

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード <sup>3)</sup>
デランフロアブル	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン <sup>2)</sup>	M9
セルカディスDフロアブル	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン <sup>2)</sup> フルキサピロキサド	M9 7
ナティーポフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11
ストロビードライフフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11

1) 令和7年2月26日時点の農薬登録情報

2) ジチアノンを含む薬剤は以下の点に注意する

1. かぶれに注意し、かぶれやすい体質の人は別の薬剤を使用する
2. 開花期以降に使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上あける
3. 夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける
4. ジチアノンを含む農薬の総使用回数は3回以内

3) FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す

担当：農作物病害虫防除所 有田川駐在  
電話：0737(52)4320